

平成23年度 定期作況報告

(10月20日)

地方独立行政法人
北海道立総合研究機構
中央農業試験場

水稻の部

水田農業G(岩見沢市)

I 気象概況

9月下旬：平均気温は平年より0.6℃高く、降水量は平年の159%、日照時間は平年の105%であり、多雨に経過した。

10月上旬：平均気温は平年より2.5℃低く、降水量は平年の132%、日照時間は平年の72%であり、低温、多雨、寡照に経過した。

10月中旬：平均気温は平年より0.4℃低く、降水量は平年の117%、日照時間は平年の79%であり、多雨、寡照に経過した。

以上、1ヶ月の平均では平均気温は平年より0.8℃低く、降水量は平年の138%、日照時間は平年の86%であり、多雨、寡照に経過した。

9月下旬～10月中旬気象表

項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	19.7	19.3	0.4	15.0	17.9	△ 2.9	16.1	15.8	0.3	16.9	17.7	△ 0.8
最低気温(℃)	10.1	9.5	0.6	5.9	8.6	△ 2.7	5.9	6.6	△ 0.7	7.3	8.2	△ 0.9
平均気温(℃)	14.9	14.3	0.6	10.6	13.1	△ 2.5	10.8	11.2	△ 0.4	12.1	12.9	△ 0.8
降水量(mm)	55.0	34.5	20.5	58.0	43.9	14.1	29.5	25.2	4.3	142.5	103.6	38.9
日照時間(hr)	60.0	56.9	3.1	34.0	47.3	△ 13.3	41.3	52.5	△ 11.2	135.3	156.7	△ 21.4

注) データは「アメダス岩見沢」を使用。平年値は平成13～22年の10ヶ年平均値を農試が算出し、使用。

表中の気温は期間内の平均を示し、降水量と日照時間は期間内の積算値を示した。

II 作況

5月20日 やや不良

事由:播種は平年並の4月18日に行った。播種後4月下旬は寡照に経過し、ハウス内の温度が上昇しにくく、出芽まで7日を要し、揃いもやや悪かった。その後も低温、寡照に経過した。移植はほぼ平年並の5月20日に行った。

移植時における苗は、茎数は平年と比べ「きらら397」、「ほしのゆめ」がそれぞれ0.1本、0.2本少なく、葉数も0.2枚、0.3枚少なかった。また、草丈はそれぞれ平年比111%、103%、地上部乾物重は105%、93%であり、苗の充実度(地上部乾物重/草丈)はそれぞれ平年比95%、90%と、平年を下回った。

以上により、5月20日時点の作況は、やや不良である。

6月20日 やや不良

事由:移植後の気温および日照時間は平年並に経過し、活着は平年並であった。しかし、苗質が悪かったため、分けつの発生が遅れた。すなわち、6月20日における草丈は、平年対比で「きらら397」、「ほしのゆめ」がそれぞれ107%、103%で平年並から平年をやや上回り、主稈葉数は平年並から平年よりやや多かった。しかし、茎数はそれぞれ74%、78%と平年を下回った。

以上により、6月20日時点の作況はやや不良である。

7月20日作況 やや不良

事由:7月上旬以降高温に推移したため幼穂形成期以降の生育は大きく進んだ。すなわち、幼穂形成期は、「きらら397」、「ほしのゆめ」がともに平年並であったが、止葉始は両品種ともに5日早かった。7月20日における草丈は、平年対比で「きらら397」、「ほしのゆめ」がそれぞれ104%、103%と平年並で、主稈葉数は平年並からやや上回った。しかし、茎数は回復せず、それぞれ82%、79%と、平年を大きく下回った。

以上により、7月20日時点の作況は、やや不良である。

8月20日作況 やや不良

事由:7月5半旬は低温気味であったが、7月6半旬以降は高温に推移し、出穂期は、「きらら397」、「ほしのゆめ」でそれぞれ2日、3日早かった。稈長は、平年対比で「きらら397」、「ほしのゆめ」がそれぞれ97%、94%と平年よりやや短く、穂長は102%、101%と平年並であった。一方、穂数は「きらら397」で平年の88%、「ほしのゆめ」で平年の87%で平年を下回った。

以上により、8月20日時点の作況は、やや不良である。

9月20日作況 やや不良

事由:一穂初数は平年対比で「きらら397」、「ほしのゆめ」がそれぞれ93%、98%と平年並からやや少なく、 m^2 当たりの初数はそれぞれ82%、85%と平年を大きく下回った。しかし、稔実歩合は「きらら397」、「ほしのゆめ」がそれぞれ平年より5.0、3.5ポイント高かった。そのため、 m^2 当たり稔実初数は「きらら397」で平年の86%、「ほしのゆめ」で89%と、平年を下回った。一方、登熟期間は気温が高く推移し、登熟は順調に進んだ。

以上により、9月20日時点の作況は、やや不良である。

10月20日作況 やや良

事由:成熟期は「きらら397」で平年並、「ほしのゆめ」で3日早かった。登熟歩合は「きらら397」、「ほしのゆめ」がそれぞれ平年より11.2、9.0ポイント高かった。初数は平年よりも少ないが、千粒重は平年比で「きらら397」、「ほしのゆめ」がそれぞれ105%、106%と重く、粗玄米重はそれぞれ61.2kg/a、58.9kg/aで平年比96%、95%であった。さらに、屑米歩合はそれぞれ平年比35%、40%と大幅に下回った。その結果、精玄米重は「きらら397」が59.2kg/aで平年比102%、「ほしのゆめ」が55.2kg/aで同103%となりやや重かった。

以上により、10月20日時点の作況は、やや良である。

注1) 作況指数(収量平年比)と作柄の判定基準 (農林水産省の統計基準による)

作況指数	~90	91~94	95~98	99~101	102~105	106~
作柄	著しい不良	不良	やや不良	平年並	やや良	良

品種名 項目 \ 年次		きらら397 中苗			ほしのゆめ 中苗			ななつぼし 中苗(参考)		ゆめぴりか 中苗(参考)	
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	(前5ヶ年)	本年	
播種期	(月.日)	4.18	4.18	0	4.18	4.18	0	4.18	4.18	4.18	
移植期	(月.日)	5.20	5.20	0	5.20	5.21	△ 1	5.20	5.21	5.20	
幼穂形成期	(月.日)	7.07	7.07	0	7.06	7.06	0	7.05	7.04	7.06	
止葉始	(月.日)	7.17	7.22	△ 5	7.15	7.20	△ 5	7.13	7.18	7.15	
出穂期	(月.日)	8.01	8.03	△ 2	7.31	8.03	△ 3	7.29	8.02	7.29	
成熟期	(月.日)	9.22	9.22	0	9.16	9.19	△ 3	9.18	9.20	9.17	
穂揃日数	(日)	6.0	5.6	0.4	7.0	6.0	1.0	7.0	6.2	7.0	
出穂まで日数	(日)	105	107	△ 2	104	107	△ 3	102	106	102	
生育日数	(日)	157	157	0	151	154	△ 3	153	155	152	
移植時地上部乾物重(g/100本)		2.06	1.96	0.10	1.98	2.13	△ 0.15	1.94	2.17	1.92	
草丈 (cm)	移植時	10.5	9.5	1.0	10.4	10.1	0.3	10.3	9.8	9.6	
	6月20日	24.2	22.6	1.6	24.1	23.5	0.6	25.3	25.1	25.2	
	7月20日	61.7	59.1	2.6	63.1	61.4	1.7	70.3	66.3	68.5	
茎数 (移植時:本/個体) (その他:本/m ²)	移植時	1.0	1.1	△ 0.1	1.0	1.2	△ 0.2	1.0	1.0	1.0	
	6月20日	235	317	△ 82	253	326	△ 73	270	315	250	
	7月20日	680	829	△ 149	705	887	△ 182	710	811	728	
主稈 葉数 (枚)	移植時	3.0	3.2	△ 0.2	2.8	3.1	△ 0.3	2.8	3.1	3.1	
	6月20日	7.0	6.7	0.3	6.6	6.4	0.2	6.8	6.7	7.2	
	7月20日	10.9	10.5	0.4	10.2	10	0.2	10.1	10.3	10.8	
	止葉	11.0	11.0	0.0	10.2	10.3	△ 0.1	10.1	10.4	10.8	
稈長	(cm)	63.5	65.5	△ 2.0	64.2	68.5	△ 4.3	69.0	69.1	67.0	
穂長	(cm)	16.7	16.4	0.3	15.6	15.5	0.1	17.0	16.5	16.5	
穂数	(本/m ²)	618	706	△ 88	673	774	△ 101	670	714	683	
一穂籾数	(粒)	45.3	48.5	△ 3.2	43.2	44.0	△ 0.8	51.9	54.6	43.5	
m ² 当籾数	(百粒)	280	342	△ 62	291	341	△ 50	348	390	297	
稔実歩合	(%)	93.5	88.5	5.0	93.0	89.5	3.5	95.5	84.0	93.7	
登熟歩合	(%)	88.8	77.6	11.2	87.7	78.7	9.0	92.4	76.1	88.6	
籾摺歩合	(%)	80.2	75.3	4.9	78.1	70.8	7.3	81.4	75.2	78.6	
屑米歩合	(%)	3.3	9.3	△ 6.0	6.3	15.6	△ 9.3	2.9	10.0	4.7	
千粒重	(g)	24.1	22.9	1.2	23.1	21.8	1.3	23.1	21.4	23.8	
わら重	(kg/a)	56.1	61.9	△ 5.8	55.0	66.9	△ 11.9	58.8	72.4	57.5	
精籾重	(kg/a)	73.8	77.2	△ 3.4	70.7	75.8	△ 5.1	78.1	74.3	72.4	
精玄米重	(kg/a)	59.2	58.1	1.1	55.2	53.7	1.5	63.6	55.9	56.9	
収量平年対比	(%)	102	100	2	103	100	3	(114)	(100)	-	
検査等級			2上	-		2上	-		2上		

注1)「きらら397」の平年値は前7ヶ年中、平成20年(最豊)、19年(最凶)を除く5ヶ年平均。

注2)「ほしのゆめ」の平年値は前7ヶ年中、平成16年(最豊)、19年(最凶)を除く5ヶ年平均。

注3)平成18年より「ななつぼし」(中苗紙筒)の調査を開始した。

注4)平成21年より「ゆめぴりか」(中苗紙筒)の調査を開始した。

注5)耕種概要

土 壤 : 細粒グライ土

施 肥 : 高度化成472全層施肥 N-P₂O₅-K₂O=8.0-9.7-6.9 kg/10a

播 種 量 : 中苗紙筒=180cc/箱

栽植密度 : 30×13.3cm 25株/m² 4本植え

移植方法 : 手植え

反 復 : 2

注6)刈り取り面積は一区3.6m²、精籾重、精玄米重は水分15%換算値を、篩目は1.9mmを使用した。

畑作の部

作物G(長沼町)

I 気象概況

9月下旬：平均気温は平年より0.5℃高く、降水量は平年の174%、日照時間は平年の105%であり、多雨に経過した。

10月上旬：平均気温は平年より2.4℃低く、降水量は平年の135%、日照時間は平年の83%であり、低温、多雨、寡照に経過した。

10月中旬：平均気温は平年より0.3℃低く、降水量は平年の81%、日照時間は平年の101%であり、少雨に経過した。

以上、1ヶ月を通じ平均気温は平年より0.8℃低く、降水量は平年の135%、日照時間は平年の97%であり、多雨に経過した。

9月下旬～10月中旬気象表

項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	19.5	19.6	△0.1	15.5	18.1	△2.6	16.5	16.2	0.3	17.2	18.0	△0.8
最低気温(℃)	9.5	8.4	1.1	5.0	7.7	△2.7	4.9	5.3	△0.4	6.5	7.1	△0.6
平均気温(℃)	14.3	13.8	0.5	10.1	12.5	△2.4	10.2	10.5	△0.3	11.5	12.3	△0.8
降水量(mm)	49.5	28.4	21.1	47.5	35.3	12.2	16.5	20.4	△3.9	113.5	84.1	29.4
降水日数(日)	3.0	3.2	△0.2	7.0	4.2	2.8	2.0	2.7	△0.7	12.0	10.1	1.9
日照時間(hr)	57.3	54.8	2.5	37.9	45.6	△7.7	52.2	51.6	0.6	147.4	152.0	△4.6

注1) 気象データはマメダス中央農試本場。欠測値および明らかな異常値はアメダス長沼で補正。

注2) 平年値は過去10年間の平均値。中央農試で算出。

注3) 最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、降水日数、日照時間は期間内の積算値。

注4) △は減を示す。

1. 秋まき小麦(平成23年播種)

平成23年9月20日作況：平年並

事由：播種期は9月20日で平年より2～3日遅いが、安定した越冬のために必要な生育の確保には問題が無い播種時期である。

以上により、現在の作況は平年並である。

平成23年10月20日作況：やや不良

事由：播種期は平年より3日遅い9月20日であった。9月22日の台風による降雨に伴い土壌表面がクラスト化し、出芽期は平年より10日遅れとなった。出芽後、10月上旬は低温、多雨、寡照に推移したため生育が緩慢となり、10月20日現在で草丈、茎数は平年を下回っている。

以上により、現在の作況はやや不良である。

項目	品種名 年次	ホクシン			きたほなみ(参考)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(H23.月.日)	9.20	9.17	3	9.20	9.18	2
出芽期	(H23.月.日)	10.2	9.22	10	10.3	9.25	8
出穂期	(H24.月.日)		6.7			6.8	
成熟期	(H24.月.日)		7.18			7.21	
冬損程度	(0:無～5:甚)		1.8			1.0	
草丈 (cm)	H23.10.20	13.3	18.9	△ 5.6	11.9	18.0	△ 6.1
	H24.5.20		48.6			47.0	
	H24.6.20		102.2			101.0	
茎数 (本/m ²)	H23.10.20	408	800	△ 393	315	643	△ 328
	越冬前(11月)		1527			1375	
	越冬後(4月)		1867			2011	
	H24.5.20		1321			1545	
成熟期における	稈長 (cm)		93.2			92.0	
	穂長 (cm)		8.3			8.0	
	穂数 (本/m ²)		769			807	
倒伏程度	(0:無～5:甚)		1.1			1.0	
子実重	(kg/10a)		601			769	
容積重	(g/l)		797			803	
千粒重	(g)		38.4			38.0	
品質	(等級)		2等			1等	
子実重平年対比	(%)		100			100	

注1) 平年値:「ホクシン」は前7か年中、平成21年(最凶)、平成19年(最豊)を除く5か年平均(収穫年度)。「きたほなみ」は前6か年の平均。

注2) △は平年より早、短、少を表す。

注3) 倒伏程度:成熟期における倒伏程度。

2. 大豆

6月20日作況：平年並

事由：播種期は平年より2日早い5月20日で、出芽期は平年より1日早かった。各品種とも主茎長はやや長いものの、主茎節数は平年並である。

以上により、現在の作況は平年並である。

7月20日作況：平年並

事由：7月上中旬は高温に経過し、開花期は「ツルムスメ」で5日、「トヨムスメ」で4日早かった。主茎長、主茎節数および分枝数は概ね平年並である。

以上により、現在の作況は平年並である。

8月20日作況：やや不良

事由：開花期は「ユウヅル」で1日、「スズマル」で2日早かった。7月下旬から8月上旬にかけて、最高気温が平年より高く推移した一方で降雨がほとんど無く、干ばつ気味に経過した。このため生育が停滞し、主茎長は各品種とも平年を下回っている。分枝数は、「ユウヅル」と「トヨムスメ」が平年より多く、「ツルムスメ」と「スズマル」は平年より少ない。主茎節数と着莢数は、「ツルムスメ」が平年並であるが、その他の品種は平年をやや下回っている。

以上により、現在の作況はやや不良である。

9月20日作況：平年並

事由：8月中旬以降は降雨が多く、前節までの干ばつ傾向は解消された。しかしながら、前節同様に、主茎長が全ての品種で平年を下回り、主茎節数は平年並からやや少ない。分枝数は、「ユウヅル」と「トヨムスメ」が平年並であるものの、「ツルムスメ」と「スズマル」は平年より少ない。莢数は、8月から9月にかけての減少程度が平年より小さく、「ユウヅル」で平年より少ないものの、「トヨムスメ」では平年並であり、「ツルムスメ」および「スズマル」では平年よりやや多い。

以上により、現在の作況は平年並である。

10月20日作況：良

事由：成熟期は「ツルムスメ」で2日早かったが、その他の品種では4~7日遅かった。「ツルムスメ」は百粒重が軽かったが、莢数と一莢内粒数が多く子実重は平年の121%であった。「トヨムスメ」は莢数と一莢内粒数が、「スズマル」は莢数が多く、子実重は「トヨムスメ」が平年の112%、「スズマル」が117%であった。「ユウヅル」の莢数は平年よりやや少なかった。

以上により、現在の作況は良である。

品種名 項目 \ 年次		ツルムスメ			ユウヅル			トヨムスメ			スズマル		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.20	5.22	△ 2	5.19	5.22	△ 3	5.19	5.22	△ 3	5.19	5.22	△ 3
出芽期	(月.日)	6.02	6.03	△ 1	6.02	6.03	△ 1	6.02	6.03	△ 1	6.01	6.03	△ 2
開花期	(月.日)	7.14	7.19	△ 5	7.27	7.28	△ 1	7.13	7.17	△ 4	7.22	7.24	△ 2
成熟期	(月.日)	9.27	9.29	△ 2	10.19	10.13	6	9.29	9.25	4	10.4	9.27	7
主茎長 (cm)	6月20日	10.0	8.6	1.4	10.9	8.7	2.2	13.2	9.6	3.6	9.4	7.3	2.1
	7月20日	48.5	48.5	0.0	44.3	44.6	△ 0.3	46.7	50.1	△ 3.4	39.2	40.1	△ 0.9
	8月20日	54.8	58.3	△ 3.5	73.1	83.4	△ 10.3	52.9	61.2	△ 8.3	56.3	67.3	△ 11.0
	9月20日	53.8	57.5	△ 4	72.5	82.9	△ 10	53.0	61.5	△ 9	56.2	67.4	△ 11
	成熟期	53.4	58.0	△ 4.6	73.9	83.4	△ 9.5	52.6	61.4	△ 8.8	56.3	68.4	△ 12.1
主茎節数 (節)	6月20日	3.1	3.1	0.0	3.1	3.1	0.0	3.1	3.0	0.1	3.3	3.0	0.3
	7月20日	12.3	11.7	0.6	11.6	11.6	0.0	9.6	9.7	△ 0.1	12.1	11.7	0.4
	8月20日	12.3	12.4	△ 0.1	14.7	15.5	△ 0.8	9.8	10.3	△ 0.5	13.3	14.2	△ 0.9
	9月20日	12.4	12.4	0.0	14.2	15.3	△ 1.1	9.6	10.4	△ 0.8	12.7	14.0	△ 1.3
	成熟期	12.3	12.4	△ 0.1	15.0	15.6	△ 0.6	9.7	10.4	△ 0.7	13.1	14.1	△ 1.0
分枝数 (本/株)	7月20日	6.5	6.4	0.1	4.5	3.8	0.7	6.6	5.7	0.9	8.8	8.2	0.6
	8月20日	5.7	6.8	△ 1.1	5.2	4.5	0.7	6.7	6.3	0.4	9.6	10.9	△ 1.3
	9月20日	5.7	7.1	△ 1.4	5.2	5.0	0.2	6.6	6.5	0.1	9.2	10.7	△ 1.5
	成熟期	5.4	6.8	△ 1.4	4.4	4.0	0.4	6.5	6.3	0.2	9.0	10.0	△ 1.0
着莢数 (莢/株)	8月20日	52.7	53.1	△ 0.4	44.6	47.9	△ 3.3	67.2	74.0	△ 6.8	138.1	144.0	△ 5.9
	9月20日	53.3	49.0	4.3	53.8	55.5	△ 1.7	64.4	64.5	△ 0.1	131.5	120.8	10.7
	成熟期	53.9	48.1	5.8	51.0	52.9	△ 1.9	67.2	62.3	4.9	140.0	113.7	26.3
一莢内粒数	2.09	1.74	0.35		1.70		1.84	1.77	0.07	2.45	2.41	0.04	
子実重 (kg/10a)	396	326	70		339		406	362	44	377	323	54	
百粒重 (g)	44.9	49.1	△ 4.2		47.2		39.5	40.2	△ 0.7	14.9	15.4	△ 0.5	
屑粒率 (%)	1.6	2.8	△ 1.2		2.9		1.3	1.5	△ 0.2	1.7	1.1	0.6	
品質 (等級)		3上			3下			3中			2中		
子実重平年対比 (%)		121	100			100		112	100		117	100	

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、16年(最豊)を除く5か年平均。

3. 小豆

6月20日作況：やや不良

事由：播種期は平年並の5月25日であった。播種後が少雨に経過したため、出芽期は平年より4日遅くなった。出芽期が遅れたため、現在のところ主茎長、主茎節数ともに平年を下回っている。

以上により、現在の作況はやや不良である。

7月20日作況：やや不良

事由：7月に入り高温に経過し、適度な降雨に恵まれた。この結果、主茎長は平年並みとなったが、本葉数が平年よりやや少なく、分枝数は平年より少ない。

以上により、現在の作況はやや不良である。

8月20日作況：不良

事由：開花期は平年より1日早かった。前節以降、7月下旬から8月上旬にかけて、最高気温が平年より高く推移した一方で降雨がほとんど無く、干ばつ気味に経過した。このため生育が停滞し、主茎節数は平年並であるが、主茎長が平年より短く、分枝数も少ない。上位節の落莢が観察され、着莢数は平年より少ない。

以上により、現在の作況は不良である。

9月20日作況：不良

事由：成熟期は平年より7日早い8月30日であった。8月中旬の降雨により干ばつ傾向は解消されたが、生育の回復は認められなかった。成熟期における生育は前節と同様であり、主茎節数は平年並であったが主茎長は平年より短く、分枝数も少なかった。一莢内粒数は平年並であり、百粒重が平年より重かったが、着莢数は少なく、子実重は平年比76%と低収であった。成熟期直後の9月初旬の降雨により、腐敗粒、発芽粒などの雨害粒が発生し、屑粒率は平年より高い。

以上により、現在の作況は不良である。

10月20日作況：不良

事由：子実重は平年比76%と低収であった。百粒重は平年より重かったが、成熟期直後の降雨のため屑粒率が平年より高く、検査等級は平年の3上に対して4上と劣った。

以上により、本年の作況は不良である

品種名		エリモショウズ		
項目 \ 年次		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.25	5.25	0
出芽期	(月.日)	6.14	6.10	4
開花期	(月.日)	7.22	7.23	△ 1
成熟期	(月.日)	8.30	9.06	△ 7
主茎長 (cm)	6月20日	3.1	4.1	△ 1.0
	7月20日	23.7	23.8	△ 0.1
	8月20日	47.3	71.1	△ 23.8
	成熟期	46.2	71.5	△ 25.3
主茎節数 (節)	6月20日	1.1	1.7	△ 0.6
	7月20日	8.7	9.3	△ 0.6
	8月20日	13.4	13.5	△ 0.1
	成熟期	13.5	13.6	△ 0.1
分枝数 (本/株)	7月20日	3.4	4.5	△ 1.1
	8月20日	3.1	5.1	△ 2.0
	成熟期	3.4	4.7	△ 1.3
着莢数 (莢/株)	8月20日	42.2	57.8	△ 15.6
	成熟期	38.4	56.1	△ 17.7
一莢内粒数		5.76	5.74	0.02
子実重	(kg/10a)	234	307	△ 73
百粒重	(g)	13.5	12.4	1.1
屑粒率	(%)	6.1	2.4	3.7
品質	(等級)	4上	3上	—
子実重平年対比	(%)	76	100	△ 24

注1) 平年値は前7カ年中、平成20年(最豊)、平成18年(最凶)を除く5カ年平均。

注2) 子実重および百粒重は子実水分15%に補正後の数値。

耕種概要

平成13年度より、すべての作物で土壌物理性・排水性が改良された基盤整備後の圃場を使用している。

	一区面積 (m ²)	反復	前作物	畦幅 (cm)	株間 (cm)	一株本数	播種粒数 (粒/m ²)	株数 (株/10a)
秋まき小麦	7.2	4	ひまわり	30(20)	条播	—	255	—
春まき小麦	7.2	4	ひまわり	30	条播	—	340	—
大豆	8.4	3	デントコーン	60	20	2	—	8,333
小豆	8.4	3	えん麦	60	20	2	—	8,333
ばれいしょ	10.8	3	ひまわり	75	30	—	—	4,444

	10a当たり施肥量(kg)				
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	堆肥
秋まき小麦	4.0+6.0	12.5	5.0	—	—
春まき小麦	10.0	18.0	12.0	5.0	—
大豆	1.5	11.0	7.5	3.5	—
小豆	4.0	19.2	9.2	2.4	—
ばれいしょ	10.4	16.8	14.0	—	1,000

注) 秋まき小麦の畦幅は平成23年度播種より20cmで実施。

中央農試作況報告について

当報告は、中央農業試験場のほ場において行った生育調査について、調査時点における値を中央農業試験場の平年値と比較したものであり、当該管内の作況を代表するものではありません。